

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 2

號八四三第・日二廿月一十輯編局報情

週報寫眞

時の立札

今日
 われらの造つた飛行機が
 明日
 戦場に神風を捲起すぞ
 送り出せ
 魂こめた飛行機を



「機をこめて送り出す」飛行機は
 戦から正員に一つ、引き出され、戦いの空
 く目と待つてゐる。中島飛行機製作所〇工場



戦ひぬいて燃料を使い果した艦載機は、僚艦の目の前でザブと着水する。搭乗員救助に向ふカマフラ



わが艦隊に喰ひ下がりんとすも敵ドラム機はわが兵艦及防衛艇に火を噴く

戦海沖島比



見敵必殺の決意をこめて、空母の勇士は別れの盃を乾す
敵米艦隊に全砲門を開いたわが無敵艦隊



比島〇〇基地に到着の山下最高指揮官
撮影 岡田通信社

直視せよ、レイテ島

敵は台湾沖航空戦、比島沖海戦と、相次ぐ大損害にも拘はらず、その後もレイテ島内外、比島沖東方海面に有力な機動部隊を出勤せしめ、レイテ、サマール両島に上陸した五箇師に上るマクアーサー上陸軍と呼應、レイテ全島の制壓を企圖して、あくまで比島奪回作戦を遂行せんとしてゐる。その旺盛頑強な戦意は決して輕視を許さない。比島方面に作戦の皇軍は、陸軍は山下本支大将を最高指揮官に、霧水泰次中將を航空部隊指揮官に、海軍は大川内傳七中將を最高指揮官に、田宮繁、大西瀧治郎兩中將をそれぞれ基地航空部隊指揮官に、陸海の精銳をすべて着々戦果を擴大、正に敵艦撃滅の神機を捉へんとしてゐる

かくてこの方面の戦況は、分秒を刻む毎に前烈の度を増し、文字通り血戦死闘の連続である

レイテ島をめぐる戦闘の興趣が、比島決戦を左右し、さらには太平洋戦線の全般に決定的な影響を持つてくることは現在誰も疑ひをなさない。小磯内閣総理大臣も去る八日、大詔奉戴日の放送の中で「比島周辺における戦闘の勝敗は天土山とも目すべき、彼我戦局の將來を左右すべき重大なる作戦といはねばならぬ」とその重大性を一億國民に明らかにされた

大東亞戦争における比島作戦の重大性は、今更いふまでもないところであり、わが本土より南西諸島を運んで比島を楯ぶ一線こ

そは、日本本土防衛の最後の要線であつてこの防衛線の運命は、とりもなほせず日本帝國興亡の運命に繫つてゐる。従つてわれわれは断じて寸土といへどもこれを敵手に渡してはならぬ。この故にこそ敵は老犬なる物量の根柢と、人的資源の出血をも顧みず、連二無二、比島奪還を敢行せんとしてゐるのである

レイテ方面の攻防戦は千載の一戦であり、断じて勝たねばならぬ。しかも事進の緊迫は少しも樂觀を許さぬものであり、同じく小磯内閣総理大臣は「今や彼我の勢力は伸伸してゐる。この勢力の均衡を破るものは、一人でも多くの兵員と、一機でも多くの飛行機を送ることである」と端的に訴へ、さらに「制空權さへ我が手にあらば敵の機演は期して待つべきである」と絶叫されてゐる

互に傷を創つてゐる前線の血闘は、相次ぐわが神風特別攻撃隊の非難によつても、うかよふことが出来る。前線では筆墨以來、皇土に生を享けた全大和民族の憤激の血を湧らせて「奇生々々」と敵に躍りかゝつてゐる

續くのだ。すべてをなげうつて神風特別攻撃隊に、そして前線の將兵に續くのだ

いま、決戦である

出撃の時産る。腰をかきり手をぶつて着地將兵は見送る。この時、爆発した飛行機は神と化して天翔けりゆく



軍艦隊が出発する時は来た。彼らが離れ去り「さよならは」と
 □ 『軍艦隊の歌』こそ、彼らに贈るべき最高の贈り物であらう

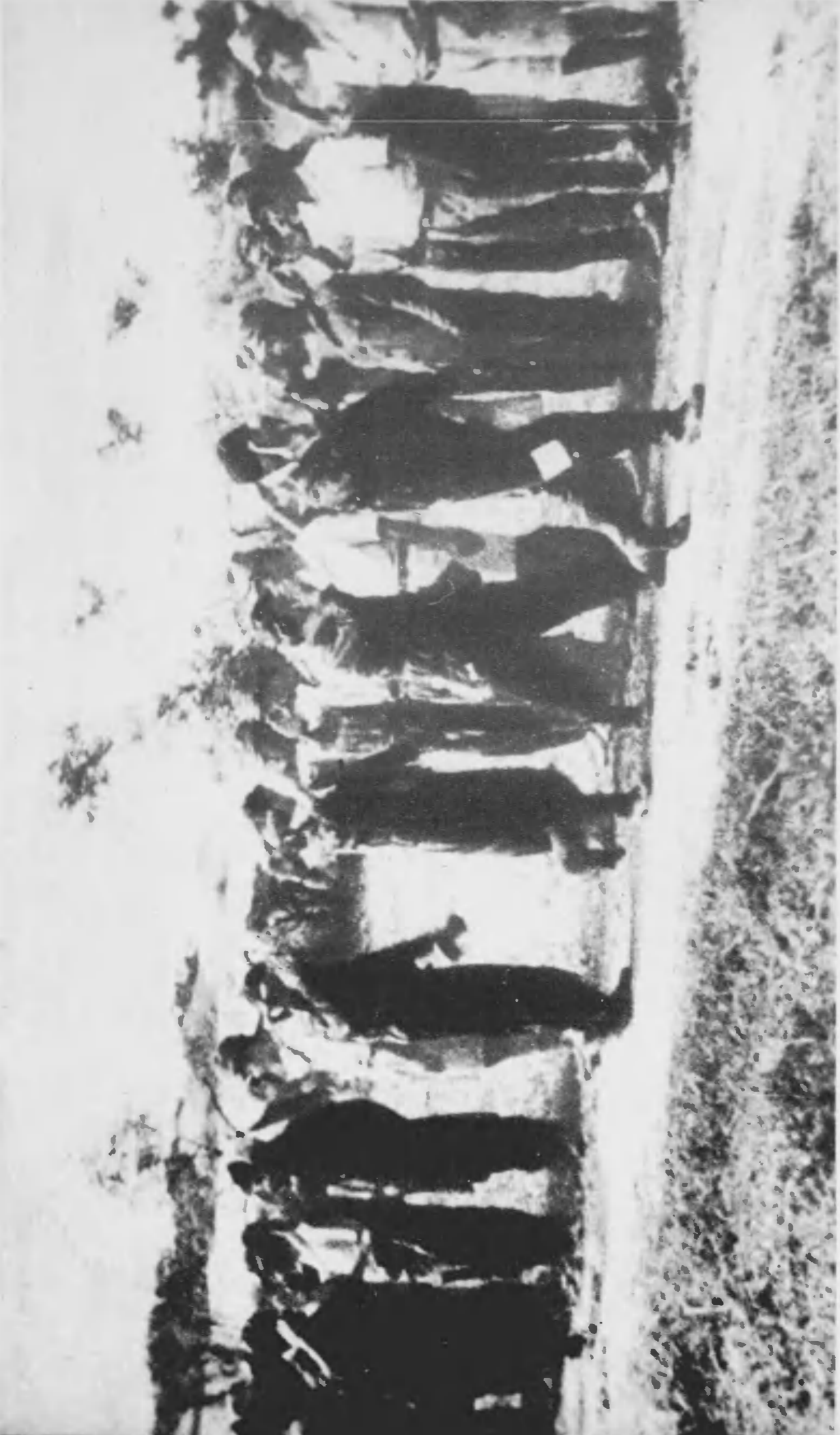
神風特別攻撃隊出撃



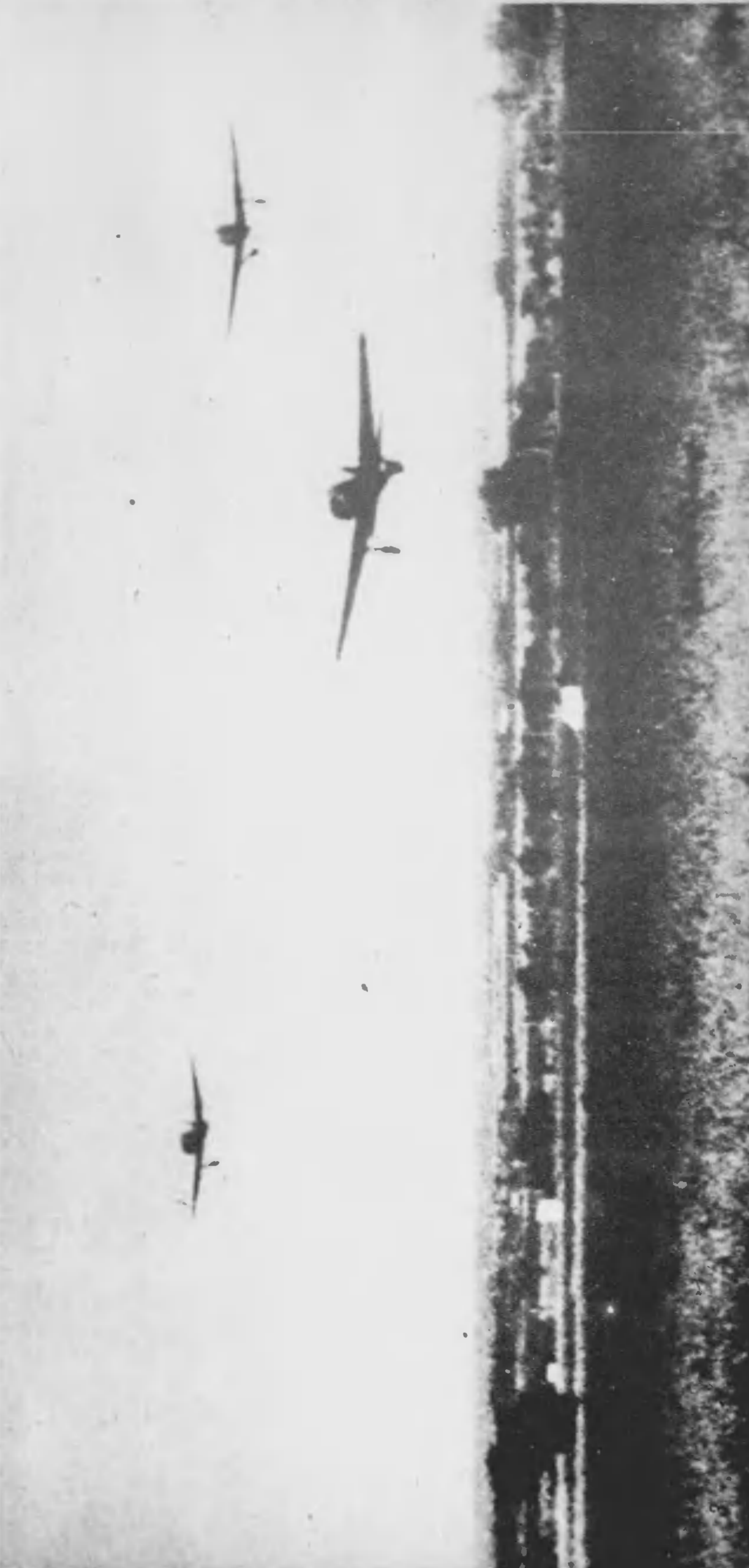
出撃に備り、所属長官は開大尉以下隊員と涙を流し交した。泣くといふ
 □ 者、泣けといふ者、統一無難、ひたすら悠久の大業を生くる將兵に續け

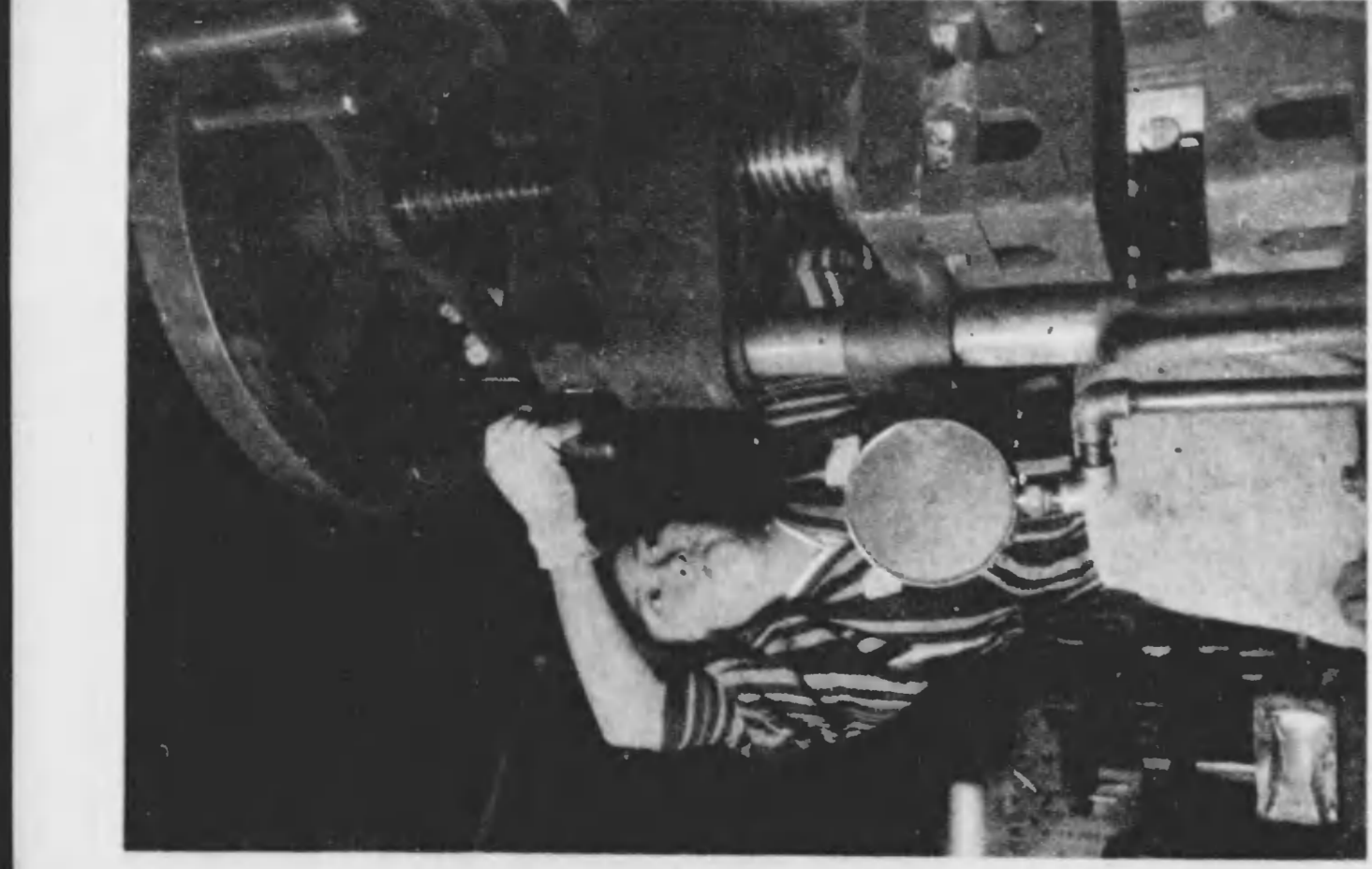


彼らと心を通じ、涙を流し交した。泣くといふ者、泣けといふ者、統一無難、ひたすら悠久の大業を生くる將兵に續け
 □ 勇士の胸に、燃く燃える烈風の姿が、彼らに伝へられた



軍艦隊は往いて来た。たゞの列、燃として萬世に響く
 □ 軍艦隊は往いて来た。たゞの列、燃として萬世に響く





▽
 遊休設備とな
 つつ全員は、
 早速同社の仕
 上服を着用し
 へした。殆ん
 ど無断で無
 断で出勤す
 る彼女たちは
 暗黒には何
 りの者がかへ
 つて驚かされ
 た。▽

返り咲く女性の戦いの産に

高崎市
 朝日化学工業工場

▽
 山本元帥の遺蹟、それ
 から郷土の軍神宮佐中
 佐の御教へに謝り、朝
 朝夕運影に謝り、御
 奉公を誓ふ

▽
 最初、作業が割合に
 清潔な仕上げがなつた
 だが、工場の手が木
 足になるら彼女たちは
 敢然油と汗の中に飛込
 んでいつた

▽
 専任社長小林助氏を
 中心に、彼女たちが仕
 事にうちこむ精進の園
 結は固い。今日は仕事
 の餘暇、社の臨時園
 で楽しい甘藷掘り



愛國の花として軍需工場に咲き、男に勝る働きをつとめて来た女子も、晴れの白紙をうける日が来た。女子を徴用するといつても今度の措置は、現在男子が徴用されてゐる工場に働いてゐる女子を徴用する、いはゆる現員徴用にとゞまり、同じ工場でも女子挺身隊には及ばない。またこれと同時に、後一ヶ月ほどで一年の出動期間の終る挺身隊は、さらに一年間職場に附みとゞまつて、熟練した機手をふるふほか、官廳や統制會、會社に勤めてゐる女子も職場毎に挺身隊を組織して、増産競争へ突進することとなつた

正に文字通り「男は戦場へ、女は職場へ」この秋、——こゝ高崎市の朝日化学工業工場に取組してゐる一團の女性がある。汗と油にまかれた彼女らに、誰が三銃を手にした前身を感じようか。國を思ふ一筋に、本年三月の決戦措置に連んで工場に奉願した彼女らは、いま誇らかに肩を張り進軍増産にまつしぐらだ

▽
 電波兵器も大切な戦時物資の部分を造る仕事、彼女たちは、或ひは死はれてゐる生甲斐をとりもどしたともいつてゐる



或る奇術

非常に大きな工場が、顔色をかへて小さな工場へ駆け込んできた。

「おい、何とかしてくれ。5號の煙草が二千個あと一週間後に届くのさ。それが届かなければ、おれは切腹だ。何とか頼むと、小工場主を拜まんばかりだ。

小工場は、ついでに何かから多少関係が出来たらぬの縁のことも、因縁だけなら拜まれても動く筋合ではなかったが、時局下のこととて、知らぬ所も出来ない。そこで小工場主は自分の工場の事情を考慮した上で、かういつた。

「5號なら、線の方は持合せがあるが、煙草にするには別煙草の持合せがない。この煙草をまはしてくれるなら、やつてあげよう。」

すると大工場の重役は首を振って。

「いや、だめだ。その煙草は使ひ切つてないのさ。だから、うちの工場でもどらにもならないのさ。材料の方は全部つらで心配してくれ。」

「困つたなあ。」

「おれは切腹しなければならぬ。それだこの時局だ。作戦に間に合はなくては……。」

「よろしいでは引受けませう。」

大工場の重役が喜んだことはいふまでもない。早して一週間後に、二千箇の5號煙草は大工場へ納まつた。そして重役は腹を切らずにすんだ。

後で、その重役は小工場主について。

「君は煙草屋だ。煙草の鋼板を持つてゐる鋼板持つてゐないなどといつたね。」

「いや、あのときは確かに一枚もなかつたのだ。」

「信じないね。おやあその後どこから手に入れたのかね。」

「君どこの工場からさ。」

「僕のところから……そんな奴だ……。」

「本當のさ。受取証を見せよう。」

とつて小工場主が出して見せたのは、所購買受証だつた。それによると、大工場の拂下げ附煙草から、こんど納品した煙草鋼板を切り出したのであつた。大工場では、一枚の鋼板から型打ち出して五十五パーセントを利用し、のこりを屑煙として捨ててゐたのだ。小工場ではそれを買つて、その九十五パーセントを利用して煙草に作りあげ、元の大工場へ納めたのだ。真材真造！本當だらうか？

わかつた！ こわつた！

皆さんの御重工業知識を動員してこの段階を打開して下さい

【問題】お母さま、お父さまが切れちやつたわ、今度はお願下のよ」と光子さんは因つながらいひました。そこへお父さまがお勧め先から歸つて来たらしく、衣間の壁マイアチをペンチでやつてゐる音が聞えたので、光子さんは大膽に「だめよ、それ切れてるとよ」と申しました。「何いつてるんだ、ちゃんとしてよ」とお父さまは笑つてゐるよ。みるよと膝上には電燈が明るくつてゐました。お母さまは……

【問題】お母さま、お父さまが切れちやつたわ、今度はお願下のよ」と光子さんは因つながらいひました。そこへお父さまがお勧め先から歸つて来たらしく、衣間の壁マイアチをペンチでやつてゐる音が聞えたので、光子さんは大膽に「だめよ、それ切れてるとよ」と申しました。「何いつてるんだ、ちゃんとしてよ」とお父さまは笑つてゐるよ。みるよと膝上には電燈が明るくつてゐました。お母さまは……

【問題】お母さま、お父さまが切れちやつたわ、今度はお願下のよ」と光子さんは因つながらいひました。そこへお父さまがお勧め先から歸つて来たらしく、衣間の壁マイアチをペンチでやつてゐる音が聞えたので、光子さんは大膽に「だめよ、それ切れてるとよ」と申しました。「何いつてるんだ、ちゃんとしてよ」とお父さまは笑つてゐるよ。みるよと膝上には電燈が明るくつてゐました。お母さまは……

【問題】お母さま、お父さまが切れちやつたわ、今度はお願下のよ」と光子さんは因つながらいひました。そこへお父さまがお勧め先から歸つて来たらしく、衣間の壁マイアチをペンチでやつてゐる音が聞えたので、光子さんは大膽に「だめよ、それ切れてるとよ」と申しました。「何いつてるんだ、ちゃんとしてよ」とお父さまは笑つてゐるよ。みるよと膝上には電燈が明るくつてゐました。お母さまは……



○街の招引隊員

和歌山縣川邊市は、時局が十字街の城下街で、街の情といふ清には招引隊員が活躍してゐる。町の騒動や戦軍の世話で、これも食糧生産増強の一役を立派に果たした。一昨年で五ヶ月前、五ヶ月前、普通通り開くのがあつた。それが今、市内全部では五ヶ月前といふから大したものさ。

野戦軍樂隊の編成をうけた園田少尉は、上野の醫學科出身の青年と本隊の佐久間上等兵を一緒にしたが、二人は性格の相違も無い。なかなか練習がしつくりゆかない。しかし官の誠心に感動した佐久間は、練習に精を出すことになり、かくて本隊も増強された。軍樂隊は前線に出動した。弾丸のなかを野戦軍樂隊が、弾は、遠く佐久間を傷つけ、今は軍樂隊の身にけられた。ひるまず、トラムベートを吹き続けろ。

この時局は、野戦軍樂隊といふ特別な題材に取材し、軍樂隊の奮闘を非常によく表したもので、國民の士氣鼓舞のためにも、ぜひ、見をすすめてほしい。

松竹 作品



軍樂隊

隊樂軍野

弾丸の兄弟 横山隆一 36



弾丸の兄弟

向きかへた行列
森 繁 猛
煙草屋に並んだ同じ組
が、反対側の郵便局へ
貯金行列をするやうに
なりました

ものはやりやう
小泉 繁 節
用水を汲かへながら
溝の掃除とはいかがで
す

郵便の門出 小泉 真 雄
「兄ちゃん、郵便全部
洗めちやいやだよ。僕
が大きいやつだから、
やつつけるのを二枚た
け残しててくれ。」

水用文防

寫眞週報 (禁無新聞紙) 昭和十一年一月十日 定価一部十錢 (送料別) 編輯者 情報局 印刷者 印刷局



冬の間は大丈夫

「冬の間は大丈夫、お母さま、お父さまが切れちやつたわ、今度はお願下のよ」と光子さんは因つながらいひました。そこへお父さまがお勧め先から歸つて来たらしく、衣間の壁マイアチをペンチでやつてゐる音が聞えたので、光子さんは大膽に「だめよ、それ切れてるとよ」と申しました。「何いつてるんだ、ちゃんとしてよ」とお父さまは笑つてゐるよ。みるよと膝上には電燈が明るくつてゐました。お母さまは……

大きな煙草を関心で伸よく申話をき入ります